

第75回 東葛しぜん観察会

長田谷津の紅葉を楽しむ

山口正明（船橋市）

日 時：11月20日（日）9時30分～12時 天気：晴

場 所：大町自然観察園（市川市）

参加者：一般29名（内子ども2名）、指導員18名

担当指導員：瀬谷 昭、千葉よし江、山口正明

「年々歳々花相似たり、年々歳々人同じからず」と言いますが、園内のもみじ山の紅葉は昨年よりもかなり遅れているようでした。でも、前日激しい風雨のお陰（？）か、小春日和の穏やかな天気にも恵まれました。濡れた狭い遊歩道に足元に気を配りながら、4班に分かれての観察です。「秋を楽しむ」ということで、紅葉だけでなく黄葉や鮮やかな実を愛でながら、その仕組みにも想いを馳せるとというのが観察会の趣旨です。

紅葉・黄葉では、イロハモミジ、ニシキギ、ムクノキ、トチノキ、アカメガシワ、ツタ、ノブドウ、ハリギリ、フジなどに加えて、ミゾソバ、ヌカキビなどの草もみじの様相はこの湿地帯ならではの。実では、カラスウリ、オオマルバノホロシ、ノイバラ、ハダカホオズキ、ゴンズイ、クサギ、シロダモ、ヒヨドリジョウゴ、ガマズミ、ムラサキシキブなどが、赤・黒・紫など、色鮮やかさを競っています。

食草のジュズダマの葉にぶら下がったクロコノマチョウの蛹、ウラギンシジミ、サワガニ、コカマキリ、ジョロウグモ、カワセミなど、動物にも出会うことができました。一般参加者に慣れない双眼鏡を貸して見てもらおうと、はじめは取り扱いに慣れないようです。しかし、いざ拡大されたカワセミを視界にとらえると、青色と茶色の美しいコントラストに、思わず「きれいー！」との歓声。しばし見入っていました。子どもさんが二人参加しましたが、カワセミに加えて、サワガニも見つけられて大いに気に入った様子。

「植物の名前の由来が面白かった」「葉を触って、ざらざらしたり、つるつるしたり、違いがよくわかった」「恥ずかしながら植物の知識がないので、今回参加してよかった」など、参加者の感想です。（恥ずかしながらと覚悟する必要はありませんが…）

一方、「ゆっくり回りすぎて疲れた」という声も。（観察会ということでこのペースを変えるのは難しいですが、人によっていろいろ感じ方があることは念頭に置くべきということでしょうか）



トチノキの大葉が前日の風雨で全部落下



これはゴンズイですね